

◆◇ 会議録(要旨) ◇◆

会議テーマ	令和2年度 第2回阿南市総合計画審議会		
開催年月日	令和2年7月16日(木)	資料の有無	有
会場	阿南市役所6階 602・603・604会議室		
出席者	<p>【委員】 小笠原委員、清原委員、紅露委員、炭谷委員、長久委員、丹生川委員、野村委員、原委員、原田委員、平山委員、増田委員、山本委員、青木委員、片山委員、西野委員、濱田委員、藤井委員、和田委員 計18人 ※岩佐委員、兼松委員、佐竹委員、富永委員、永田委員、甘利委員、西岡委員は欠席</p> <p>【市】 松内企画部長、岡田企画政策課長、山田課長補佐、岸本課長補佐、新居係長、湯浅事務主任 計6人</p> <p>【オブザーバー】 (株)ぎょうせい四国支社(石丸担当課長、成田主任研究員、井澤研究員)</p>		
傍聴者	1人		
内 容			
<p>【次第】</p> <p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">(1)基本構想(骨子案)に対する意見等の報告</p> <p style="padding-left: 20px;">(2)基本構想(素案)について</p> <p style="padding-left: 20px;">(3)基本構想(素案)に対する意見集約</p> <p>3 閉会</p>			

13:30 開会

【次第】

1 開会

2 議事

(1)基本構想(骨子案)に対する意見等の報告

(事務局)

資料1「パブリックコメントでのご意見の要点」

資料1-1「総合計画審議会委員からの意見(審議委員)」

資料1-2「総合計画審議会委員からの意見(パブリックコメント)」により、説明を行う。

○審議

意見なし

(2)基本構想(素案)について

(事務局)

資料2「意見の整理と基本構想(素案)への反映」

資料3「(仮称)第6次阿南市総合計画(骨子案)」

基本構想(素案)により、説明を行う。

○審議

(会長)

委員の皆の意見とパブリックコメントの意見を反映・参考にした夢のある素案となっている。
意見や質問を伺う。

(A委員)

基本的には、さまざまな意見をもとに作成していると思うが、分かりづらい横文字がある。

例えば、「シビックテック」や「サスティナビリティ」である。「サスティナビリティ」の横に括弧して「持続可能性」とあるが、表現として、逆(日本語が先)の方が良いのではないか。

漢字の「持続可能性」が来て、括弧して横文字での表現があるというのはいかがか。横文字にすると曖昧になる。

日本語として定着しているものであればまだしも、定着していないと意味が分からない。単語の使い方を工夫してほしい。

シビックテックとは英語か。和製英語か。

(事務局)

シビックは「市民」、テックは「テクノロジー」、これを合わせた造語である。

脚注を入れることで対応したい。

(A委員)

脚注ではなく、日本語を先にして、括弧にする。日本語の方が、あらゆる世代にわかりやすいと思う。横文字は曖昧な印象があり、分かりづらい表現は避けてもらいたい。

(会長)

「サステナビリティ」は日本語として共通項になってくると思う。総合計画は8年間の計画なので、「サステナビリティ」は持続可能な社会を創っていくという認識がされてくると思う。「シビックテック」に関しては、非常に新しい言葉であるが、そのあたりを踏まえ、日本語を先か、英語表記をやめるか、市民のことを考えて検討して欲しい。

(B委員)

長期ビジョンの最初に「夢ある未来を戦略的に縮むこと」という表現がある。刺激的な言葉だと思うが、「縮む」という表現は何を意味しているのか。

(事務局)

人口減少していく社会の阿南の姿を表現している。人口減少だけではネガティブで、期待が持てない。しかし、人口減少は避けては通れないため、正面から向かっていく必要がある。どのように、人口減少社会においても暮らしやすいまちをつくっていくか。減っていくことは分かっても、そのままにするのではなく、減っていくことを前提にしたまちづくりを進める。積極的にそういった社会を想定した戦略的にコミュニティを縮めていく。縮めていかないと、今の行政サービス、マンパワーでは同じ水準を保つのは難しくなると考えている。いろいろな課題もあるが、やはりコンパクトなまちづくりの概念は必要ではないか。

(B委員)

「人口減少に立ち向かう豊かでキラリと輝く街」と「縮む」のイメージが一致しない。

(会長)

事務局も説明しているため、委員の中でも意見を交わしてもらいたい。

(C委員)

同じ質問であった。

(D委員)

美辞麗句が多すぎる。「豊かな」「期待できる」「実感できる」は個人の感性で、客観的な表現ではない。構想を練るときは、市民にアピールする言葉も必要かもしれないが、原案の骨子の段階で美辞麗句を入れると、それが記憶に残り、本質的なことが見えてこなくなる。

それぞれの文章で「みんなが」「快適な」は省いた方が良いのではないか。

政策を策定する人にも形容詞の使い方を聞きたい。

(事務局)

パブリックコメントでも「希望」や「夢」といったポジティブな計画にして欲しいという意見があった。市民の皆さんにも共感が得られるような計画にしたいと考えている。行政も、目の前に人口減少社会があるが、ネガティブにならず、阿南市を少しでも良いまちにするための計画づくりをしてきた。

(会長)

私も夢の持てる計画でないと共感できないと思う。

(E委員)

パブリックコメントと各委員の意見が反映されているのではないかと。

40ページの将来人口のところ、人口の数字も出ているが、前回の阿南市の人口ビジョンでも実質人口との乖離が出てきたので、検証してほしい。絵に描いた餅にならないようにしてもらいたい。人口減少に立ち向かうというのはよいが、具体的な政策がわかりやすくする必要はある。人口について、十分検討したのか。

(事務局)

資料の40ページをご覧ください。人口の将来見通しというグラフがあるが、黒の線が、社人研が推計した阿南市の将来推計人口で、黄色のラインが、目標とする将来人口を示している。平成28年3月に策定した阿南市人口ビジョンの検証は十分に行っている。また、阿南市まち・ひと・しごと総合戦略懇談会でも説明している。結果は、目標には程遠い、厳しいものだった。人口ビジョン策定以降、4年間の地方創生の取組等を踏まえた上で、推計した将来人口が黒のラインであることから、今まで以上の成果を上げないと、黒のライン以上の人口増加は見込めない。平成28年策定の阿南市人口ビジョンの目標値(63,000人超)からは下方修正せざるを得ないが、できれば2060年人口は51,000人超を目指したいと考えている。

(F委員)

23ページの「安全・安心の意識の高まりで」のところ、過去の災害として東日本大震災や熊本地震の2つの大規模地震のみを例示しているが、近年では、平成30年に西日本豪雨も発生している。2つを選んだ理由を聞きたい。

(事務局)

特別な意味はない。

(F委員)

平成30年の西日本豪雨も入れた方が、阿南市としてイメージがしやすい。

(G委員)

この計画(総合計画)は誰が見ると想定しているか。

また、パブリックコメントは13件あったが、この件数は全国的に見て、また市役所として多いのか。

(事務局)

総合計画は誰が見るのかということだが、市民の皆さんに見ていただけるよう、計画書は、図書館や住民センター、公民館等に設置する予定。

パブリックコメントについて、第5次総合計画策定時の件数よりも多く、あくまで個人的な見解ではあるが13件は多いと感じている。市長自らが積極的に広報した効果の表れではないか。

(H委員)

本編にはまちづくりの視点に画像を入れる予定はあるか。

(事務局)

これは会議資料であるため、このまま冊子になることはない。ビジュアル的にも見栄えの良いものを作っていたらと期待している。

(H委員)

視覚的にわかるものの方が伝わりやすい。

(3)基本構想(素案)に対する意見集約

○序章

(会長)

ここからは、委員同士で意見を交わすこととする。序論について意見はいかがか。

(E委員)

前回の審議会の時に、阿南市内の製造業についての調査をお願いした。その結果、阿南市は製造業を中心に成長していると聞いた。商工会議所の話では、地元の産業が疲弊している感じがある。従業員4人以上の製造業のデータを見ると、この10年で33%地元の製造業が減少した。阿南市の産業を議論していく中で、この数字は各委員の中で共有してもらいたい。人口の動態予測で、類似の市の比較があったが、板野郡の数字を出してもらいたいと言った。特に、藍住町、北島町では人口が減少しないという結果があった。委員の皆にも、データを共有して欲しい。

(会長)

資料は持っているのか。

(E委員)

私は、持っている。今言ったように、中小製造業がこの10年で3分の1が減少している。基本的には、阿南市では製造業で成長している。

(会長)

データの共有はできるか。

(事務局)

用意する。

○基本構想

(会長)

基本構想について、章ごとに意見いかがか。

○第1章

(H委員)

全体に言える事であるが、文章がわかりづらい、読みづらいと思った。32 ページの下段の「これまで本市の経済や暮らしを支え」というところの文章の構成をもう少し変えていただいた方が分かりやすいと思う。

(会長)

具体的に、どういうイメージか。

(H委員)

「みんなの願い」は市民に向けてだと思うが、「生涯にわたり活躍できる地域社会の実現はみんなの願いです」というのが文頭にきた方がわかりやすいと思う。

文章は、80文字くらいが伝わりやすい。どなたでもわかりやすい文章を心がけてもらえたらありがたい。

(D委員)

私は、どうしても美辞麗句にこだわってしまう。

「豊かでキラリと輝く」というのは、公文書では使わないのではないか。

科学論文でもこういうのを書かれたら消されてしまうと思う。これは、人間の感性に訴える文章で、客観的には「人口減少に立ち向かうまちづくり」と書けばよいことで、なぜ「豊かでキラリ」という変な文章が入るのか。キャッチフレーズを作るコンサルが市にアドバイスをして、こんな文章を作ったのではないか。市の人が作る文章としてはやりすぎではないか。

(会長)

確かに美辞麗句は多いが、意見いかがか。

(G委員)

今、(D委員の意見で)論文という言葉が出たが、私はピンとこなかった。私は逆にわかりやすいと思う。誰が見るのかということも考え、分かりやすいものにしてもらいたい。

誰に向けてということで、「市民に向けて」とあったが、見に行こうとしないと分からない。

私も初めてこの場に来たが、総合計画があることを初めて知ったくらい。もっと知ってもらえるようにしてもらいたい。知ってもらうに分かりやすく書いてほしい。

(会長)

たしかに、阿南市の将来を担う40年先を見据えた計画である。美辞麗句が多すぎても分かりづらい面もある。ほかに、意見はいかがか。

(I委員)

消費者を代表して会議に出席していることを踏まえて発言したい。

経済の発展や人口減少のこととか住むことを中心に考えている。一人ひとりの消費者が地球環境を守るために大事な時期にあると思っている。そういう意味で、ベースとなる消費者意識をしっかり持ち、どこにも負けない消費者意識と行動力のある市であってほしいと願う。

(A委員)

36 ページで、「バックキャストिंग」の下にある文章は、バックキャストिंगの意味を書いているのか。

(事務局)

バックキャストिंगの考え方を書いている。

(A委員)

下段にある「未来にありたいビジョンを描き、現状を分析。その後、ギャップを埋めるための施策を検討し、実施可能なロードマップを作成し、実施していきます」は、解説文としては弱いのではないか。そもそも、バックキャストिंगといっても誰も知らない。日本語に訳せるのであれば、日本語にしてほしい。

(会長)

そのあたりはまた検討して欲しい。皆が分かりやすいものにして欲しい。

(A委員)

出来る限り、分かりやすくすべきかと思う。

(会長)

誰が読んで何を考えるか、分かりにくいことが書いてあれば、誰も読まない。

○2章

○3章

(会長)

2章と3章はまとめて議論する。意見はいかがか。

(E委員)

「分かりやすさ」という話があったが、SDGsについては認識が不十分ではないか。それぞれの取り組みの紹介をしてはどうか。取り組みの事例を紹介しないと、初めて読んだ人には分からない。ぜひ説明を加えてほしい。

(会長)

SDGs に関しては、阿南市どれに力を入れるか見えてこない。
また、力を入れていくのは阿南市の強みになるのではないか。

(A委員)

SDGsの解説を増やすべきではないか。

(事務局)

SDGs の説明は、基本計画のところで詳しく説明する。基本構想では触れる程度である。

(A委員)

次の部分(基本計画)で扱うのか。

(事務局)

そうである。

(会長)

阿南市としてSDGsに取り組むのは、世界全体の動きでもあるので取り残されないように研修や講習が必要ではないか。

(H委員)

昨日阿南市内でSDGsのイベントがあったので参加してきた。17の項目があり、機能していたのが17番「パートナーシップの力で16項目を達成しようと呼びかける」ということを知った。SDGsは個人が取り組むものである。「市民みんな一人一人が活動に参加できる」という文章を入れて欲しい。

(F委員)

第3章のまちづくりの視点で、「人口減少社会」の内容が、資料で1番上に出てくる。全国的にも人口減少に関する対策を行うのが流れである。個人としては、40年先を見据えるのであれば、2番の「次世代につなげる持続可能なまちづくり」が最初にくるのではないかと考えている。

しかし、これには葛藤がある。人がいないと達成できない。人がいないといけない。

また、3番の「安全・安心」には意見を出して、「安心」を付けてもらった。やはり、巨大地震や豪雨がくる時代で、避けては通れない。なぜ強く言うかという、アンケートは「防災対策があれば住んでも良い」との結果がある。そのため、2番でも良いのではないか。

(E委員)

私も安全・安心は大事だと思っている。特に、南海トラフ大地震も問題だが、堤防は7年連続で切れており、洪水氾濫や気候変動も文言に入れてほしい。立地適正化計画の時のアンケートでも、2%の人が津波被害を懸念し、阿南市から出たいと言っている。

安全なまちは、これから市のブランドになる。河川氾濫、気候変動も含めて表現してほしい。

(会長)

文章の順番はどうするか。実際は「次世代につなげるも大事」だが、ネガティブワードの「人口減少」が最初にきている。よろしいか。

○4章

○5章

(会長)

第4章と第5章をまとめて議論する。意見はいかがか。

(A委員)

阿南市は人口減少するとのことで、阿南市はいろいろな取り組みをしなければならない。
そのことで、生涯チャレンジ都市は大事だが、「失敗を恐れない」ことも大事ではないか。
行政の担当者が市民から意見をもらう時に、上司に話を持っていくことをおそれる人が多い。
チャレンジして失敗しても良いのではないか。失敗を恐れてチャレンジしないと何も進まない。
こういうことはどこの章に入れるのか分からないが、生涯チャレンジ都市を名乗るのであれば、
「失敗を恐れない」というニュアンスの言葉を入れてほしい。
そうすることによって、いろいろな提案を受けることもできる。実際にやってみて、検証して、もう
一回チャレンジしてPDCA サイクルを回す。
「とにかくやってみる」というところまでいかないと、計画しただけで終わりとなる可能性もある。

(会長)

チャレンジ都市としてあるので、チャレンジしなければならない。

(C委員)

A委員の意見に賛成である。
新型コロナウイルス感染拡大が大きな問題になる中、それが関連するか分からないが、入れてい
ただきたい言葉が、「失敗が許される都市」というか、「失敗が許される社会」であってほしい。
再起できる社会というのは、自殺抑止にも生きがいにもつながるのではないか。
A委員がいったような「失敗を恐れない」や「失敗が許される」といった言葉を入れてほしい。

(E委員)

「多様な産業」とつまり、「多様」という言葉が使われているが、産業は裾野が広いため、「多様」と
書くと「何でも」という印象を受ける。阿南市の産業は、強みがあるので、とがった表現が良いので
はないか。

(会長)

阿南市の産業の強みは何か。

(E委員)

LED や先端技術である。

(会長)

尖っている産業は、中小企業も入るのか。

(E委員)

中小企業も含まれる。

○6章

○7章

(J委員)

41 ページで「生涯チャレンジ都市」というのを打ち出すのであれば、チャレンジ1、チャレンジ2というわかりやすい表現にはいかがか。

健康福祉の所で、高齢者や障がい者の言葉が出てくるが、シニアが蓄積してきた知識・経験を地域の活動や就労につなげるような支援をしていくといった、チャレンジの具体的なことを入れてもらいたい。

6つの中に、どんなチャレンジかと示してほしい。また、どこに入れていいか分からないが、「まちづくり団体を支援していく」という言葉を入れてほしい。

「戦略的に縮む」という言葉は、インターネットで調べたらジャーナリストの河合氏の本の中に出てきた。そこから取ったのではないか。また、「キラリと輝く日本」という表現も出てきた。河合ジャーナリストから取ったのか。

(事務局)

「戦略的に縮む」は都市計画の言葉から発案したものだ。

都市計画の言葉で、「スマートシュリンク」という考え方があって、生活の質を向上するため、さまざまなサービスを効率化させる。その中で、特異性を見出し、地域の競争力を高める。「スマートシュリンク」を日本語に訳すと「賢く縮む」となる。都市のスマート化は戦略的に取り組まないと実現しないと考えている。

(J委員)

第6章は基本政策なので、ここを分かりやすくインパクトある表現にして欲しい。

(K委員)

私たちの世代は、総合計画を知らない世代だが、漫画やダイジェストにする必要もある。今の時代は動画で、目で見ても分かるようにしたらどうか。外国人にも分かりやすい。

(会長)

最終的に、目で見ても分かるようにしてほしい。また、小さい子でもわかるようにしてほしい。

(D委員)

基本政策のキャッチコピーに形容詞はいらない。

みんなが健康で…の「みんな」はいらない。

「実感できる」もいらない。

「新たな賑わい」もいらない。単なる「活力を創造するまち」でよい。

「快適で暮らしやすい」も、自然と調和したまちがそういうのを創っていくのだから、言わなくても分かっている。感性に訴えなくても良いのではないか。

(A委員)

「地域資源を生かした新たな賑わいと活力を創出する」のところに「SUPタウン」とあるが、これから8年間の計画であるならば、光のまちやSUP以外にも新たな核となるものが必要ではないか。

(C委員)

K委員の意見で「外国人にもわかりやすい」との意見があったが、7章の右の枠に外国人を入れてはどうか。

「安全で安心な暮らしを実感できるまちづくり」の人権のところがよいか。

技能実習生も増えており、技能実習生がいないと阿南市の産業は成り立たない。

(会長)

入れるとすると、「安心・安全」のところか。

(C委員)

人権施策推進基本法の中に、外国人のコーナーがあるが、人権の分野がよいのではないか。

(G委員)

人権の部分は難しいのではないか。差別とつながるのではないか。

入れるならば、交流、文化、教育のところではないか。

(C委員)

阿南市人権施策基本方針では課題が14項目ある。同和問題、女性、高齢者、子ども、性的少数等、ここで外国人の人権を考えている。

(会長)

第5次阿南市総合計画体系案では、「交流」の中に「国際交流」にあった。

(会長)

文言の修正は行うが、基本的な方向性はこのような案で良いか。

(一同)

賛成

(会長)

22日までに、市長に答申中間とりまとめを行う。

15:00 終了